

# 私たちは大学ポートレートにこう取り組んだ

編集部は、私学版公開直前の2014年9月に、複数の大学にヒアリングを行った。ポートレート作成にあたっての姿勢や体制、「特色」「取り組み」等の注目すべき項目の記載について、公開までの作業を終えて気づいたこと、新たに取り組むことなど、3大学の担当者の声を伝える。

## 東北福祉大学

教育情報分析室長、教務部副部長  
皆川正教授

### 福祉の考えに基づく独自の育成観を紹介

大学ポートレートの作成は、特色強化、情報公開につながる点で、高等教育改革の流れを汲んでいる。受験生、保護者、高校教員に役立つツールであるという点も評価して、全学を挙げて取り組んでいる。

広報課が統括部署、教育情報分析室が「取り組み」の責任部署となり、全学的な協力体制で作成した。「基本情報」は職員、「特色」は学長補佐と学部長、「取り組み」は各部署や学科長など、所管に応じて分担した。依頼時には多少の反発はあったものの、学生のためになることがわかると、理解を示し、協力してくれた。学長、学長補佐、関係教職員が、ことあるごとに支えてくれたこと、改革を進めるために全教職員がさまざまな情報を共有する風土があったことも幸いだった。

大学の「特色」の一つとして挙げた「音楽堂や美術工芸館などにより感性を育み、創造的思考力・総合的判断力を養う大学環境」は他大学との差別化

に意を用いている。ここには文化施設を通じた人格形成を重視し、共感力や気づきを高めるといふ本学ならではの福祉人材の育成観が示されている。候補はほかにもあったが、独自性を重視した。

執筆作業を通じ、本学では46項目の「取り組み」のうち45項目を実施していることがわかった。さらに充実させたい取り組みもあり、改善に動いている。また、実施はしていても、「検証」や「学生の成績評価」が十分でない取り組みもあった。今後、既に導入している学習ポートフォリオ「リエゾンポートフォリオ」や学生アンケートなどを、それら不十分な項目に対応できる内容に改善する予定である。

また、大学ポートレートに合わせて自学のウェブサイトの構成を一部変更した。ポートレートでは1項目につき1つのリンクのみなので、各所に散在していた情報をまとめてリンク先に指定し、抜けていた内容を補った。ウェブサイトは学内で制作しているので、すぐに対応できることが強みである。

10月の公開後も更新に努めているが、大学ポートレートというツールが社会に浸透するには時間がかかると考えている。本学も3年ほどかけて充実させるつもりである。(談)

## 松本大学

総務課 柴田幸一課長

### 全学参加の方針の下教職協働で作成

建学の精神やそれに基づく特色、取り組みを、高校生をはじめ社会に伝える大学ポートレートの役割は大きい。できるだけ多くの項目を入力、更新すると共に、自学の魅力、独自性を発信していくつもりだ。

本学ではまず、最終意思決定機関である全学協議会で、ポートレート作成を全学的な取り組みとすることを決定。学校法人基礎調査を担当する総務課と大学広報を担当する入試広報室が連携し、作業の取りまとめ役を務めた。

各入力項目を学内委員会および事務局の部署に割り振り、教員と職員が協働する形で原稿を作成した。その後、各委員長、各部署長が目を通し、全学協議会のメンバーが最終チェックを行った。

掲載内容の検討は、自己点検・評価に近い作業となり、その過程で本学の教育の全体像、取り組みの具体的状況を確認できた。一方、改善が必要な点

も明らかになった。全学的に取り組んだ結果、各教職員がそれぞれの課題を認識するよい機会になった。

大学の「特色」は、「①文科省『地(知)の拠点整備事業』COC大学として」「②独自の『地域連携教育』の実践」「③1人ひとりの希望を叶える、徹底した就職活動の支援」の3つとした。特に②は、他大学と差別化できる特徴だと考えており、今後「実現するための主な取り組み」をはじめ、関連情報を充実させたい。

「取り組み」は46項目挙げられているが、本学で実施している施策がそれらと1対1で対応するものではない。むしろ複数の項目に当てはまることのほうが多い。その場合、どれに当てはめるかは各大学の判断に任されるので、同様な施策であっても大学によって異なる項目名で紹介することもあるだろう。その違いもまた、大学の特色を反映していると言える。(談)

## 長崎外国語大学

教育支援課 洲加本周五郎課長

### 掲載内容の検討を通じて自学の強みを発見

作成の全体の主幹は総務課だが、これまで自学の広報媒体等で扱わなかったような大学の教育面の「特色」など、教育の質やその保証に関わる項目については、教育支援課でも掲載内容の素案を検討した。本学の「顔」となる「特色」の内容については、学内の調整が必要で、10月の公開には機を逸したが、学長のガバナンスの下、「留学・国際交流」に関する内容を中心に急ぎ入力し、公開の準備を進めている。

作成作業を通じて自学の取り組み全体を俯瞰すると、これまで広報してきたこと以外にも強みとなる部分があった。自学の公式ウェブサイトなど、

他の媒体についても見直し、ポートレートとの接続や連動を密にしたい。

ただ、各「取り組み」の名称は高校生には馴染みが薄く、学生募集に関する情報で他の受験情報サイトに及ばないと見られてしまえば、真に志望校選択に活用されるまでには一定の時間を要する。一つにはポートレートの項目の枠組みが高等教育関係者の視点で設計され、「取り組み」の用語が一般の人にはわかりにくいものとなっている。大学の教育を深く見る視点の啓発段階であるが、社会の意識の転換が進めば、ポートレートは有用な情報ソースとして認識されるだろう。

さしあたり、もう一つの本来の目的である「他大学の取り組み施策に関するデータベース」と捉え、ここで収集した情報を基に自学の改革の方向性について確認し、あわせて独自性を創出したり、錬成したりするための情報として活用されるだろう。(談)

## COLUMN

### 各大学の個性に「出会う場」としてのポートレート



学校法人千葉経済学園  
理事長

#### 佐久間 勝彦

私は2011年の「大学における教育情報の活用支援と公表の促進に関する協力者会議」の委員を務めた。

大学ポートレートに対する期待は、各大学・短大のウェブサイトに誘う「目次・索引」としての役割である。

調べたい大学があってポートレートを開く。すると、今まで視界に入っていなかった別の大学の情報が目に入り、リンクからその大学のウェブサイトを見る。「おっ、この大学はいいじゃないか」と、願ってもない出遇いを喜び、志望校のリストに加えていく。

10月に公表された「私学版」を開くと、各大学・短大のとおきのおきの情報が目に飛び込んでくる。「こういう学生を育てる」という大学側の思いが伝わる。建学の精神やアドミッションポリシーなどからキャンパスの画像までの情報が

充実し、とりわけそれぞれの大学が誇りとする「強み」の発信には力が込められている。

従来の情報媒体ではそれほど注目されることなかった地方の大学・短大や小規模校の地道な教育の姿も目に入る。地方創生の拠点となる高等教育機関がこのように全国に散在していることが伝わってくる。

このポートレートは、私たち大学人にも示唆を与える宝庫となった。「公表」から「活用」へと、今後の善用が大いに期待される。(談)